

戸建住宅におけるまちとの繋がりに関する研究 その①
：親和図法を用いた言説の分類と因果関係の整理

準会員 ○栗原稜*1 正会員 北島陽貴*2
正会員 藪谷祐介*3 同 有原千尋*2
同 北野まつ葉*4 同 谷内遥香*5

言説分析 KJ法 設計論
コミュニティ 内外連続 公共性

1. 研究の背景と目的

近年積極的にまちとの繋がりを生み出そうとする住宅事例が増えているが、設計者の意図するまちとの繋がり全体の全体性は明らかにされていない。また、「繋がり」には非物質的な意味も含まれるため、写真や図面などの実態的な情報だけから分析することは困難であると考え。そこで本研究は、写真や図面などの実態的な情報も参照しつつ、設計者の解説文からまちとの繋がりを目的とした設計思考の特徴の一端を明らかにすることを目的とする。本研究は2編で構成され、本編では言説分析によって言説の因果関係を整理する親和図の作成を行う。

2. 研究方法

2-1. 分析対象

東日本大震災が起き、人の繋がりが注目された2011年以降の11年間の建築事例を分析対象とした。研究資料として日本を代表する建築ジャーナリズムのひとつである建築専門誌『住宅特集』に掲載されたまちとの繋がりを目的とした戸建住宅60事例(表1/2021年5月時点)を選出した。

2-2. 分析方法

『住宅特集』の解説文を質的分析法である親和図法(KJ法)によりまとめる。地域との繋がりに関する研究にモンスペーの設計論に関して言説と建築構成の両面から分析しているものがあるが、「地域との繋がり」を目的とした記述のみを分析対象としている。本研究では戸建住宅を対象にプライバシーの確保(まちとの切断)を目的とした言説も分析対象に含める。分析手順は以下の通りである。①解説文のローデータを作成する。②①の意味を解釈しながらできるだけそのままの形で「方法」「目的」「設計の背景」で分節する。同時に「方法」と「目的」の因果関係を確認する。③②を用いて事例ごとに親和図を作成し、「目的」と「方法」の関係性を整理し、同様の意味を持つものをラベル化する。④全事例を対象に、類似するラベルをカテゴリー化する。親和図の作成ではこの4つの手順を経る。

3. 親和図

「まちと繋がる工夫」について、既往研究¹⁾を参照し「方法」と「目的」を縦軸に、「時間的側面」と「空間的側面」を横軸にして、言説を4つに大別した。また、周辺環境・敷地環境・建主・効果を含む「設計の背景」も図示した。カテゴリ

一は実線、ラベルは破線で囲い図示した(図1)。抽出された言説からは空間的側面を多く確認できた。空間的側面に関する言説では図面や写真を参照することで、言説の持つ複数の意味を解説したことが要因だと考えられる。

表1 事例リスト

事例番号	名称	発行年月	家族構成	施工		規模				敷地条件		
				工種	構造	階数	建蔽率	延床面積	人口密度	地域区分	接道面数	駐車台数
01	小路の家	201103	核家族	N	S	B1-2F	39.88	113.45	2	その他	2	2
02	N-HOUSE	201209	核家族	N	S+RC	B1-3F	57.24	586.87	1	住宅地域	1	2
03	世倉の家	201301	核家族	N	W	1F-2F	26.07	107.84	2	商業地域	1	2
04	オビの家	201302	夫婦	N	S+RC	1F-3F	58	74.4	1	住宅地域	2	0
05	筒の積み木	201303	核家族	N	RC	B1-2F	37.64	63.58	1	住宅地域	1	1
06	円山の家	201304	核家族	N	W+RC	B1-2F	24.04	166.13	2	住宅地域	1	2
07	2srhouse	201310	核家族	N	W	1F-2F	30.61	91.64	1	住宅地域	1	2
08	横浜ホンスミ邸	201401	核家族	N	W	1F-2F	59.95	55.8	1	住宅地域	1	1
09	箱の家 147	201405	核家族	N	W	1F	44.65	105.99	1	住宅地域	1	2
10	六甲浦の家	201406	核家族	N	S	1F-2F	73.68	60.21	1	商業地域	1	0
11	安藤さんの家	201406	核家族	N	W+RC	B1-2F	60.74	59.47	1	住居地域	1	0
12	豊中の天居	201411	核家族	N	W+RC	1F-2F	49.35	147.59	3	住居地域	2	0
13	Nesting in the Earth	201412	夫婦	N	W	1F	47.03	148.31	1	住居地域	1	3
14	ハウス・イン・ニュータウン	201412	核家族	N	S	1F-3F	49.83	98.23	1	住居地域	1	1
15	川崎の住宅	201412	核家族	N	S	B1-3F	42.91	96.3	1	住居地域	1	2
16	エン・ハウス	201502	核家族	R	W	1F-2F	58.7	98.54	1	その他	2	0
17	あやめ地の家	201505	2世帯	N	S+RC	B1-3F	27.81	108.87	2	住居地域	2	2
18	西萩角地の家	201507	核家族	N	S+RC	B1-2F	59.53	114.03	2	住居地域	2	1
19	倉敷の家	201508	夫婦	N	W	1F-2F	35.25	137.37	1	住居地域	1	1
20	中庭のある家	201508	夫婦	N	W	1F-2F	39.72	116.62	1	住居地域	1	3
21	A邸	201510	夫婦	N	W+S+RC	1F-3F	48.86	187.37	1	住居地域	1	1
22	軒家/NOKIYA	201512	核家族	N	W+RC	1F-2F	38.72	87.01	3	住居地域	1	2
23	旋の家	201512	核家族	N	S	1F-2F	39.2	125.76	1	住居地域	1	2
24	藤戸の家	201512	2世帯	R	W	1F-2F	32	137.25	1	住居地域	1	1
25	cotoiro	201512	核家族	N	W	1F-2F	29.63	85.27	2	住居地域	2	2
26	上目黒の住宅	201604	核家族	N	W	1F-2F	58.08	87.25	1	住居地域	1	0
27	切妻の舎	201610	核家族	N	W+S	1F-2F	27.53	141.14	1	その他	3	3
28	中出邸	201612	2世帯	N	W+S	1F-2F	59.22	114.93	2	商業地域	3	0
29	Blink House	201612	核家族	N	W	1F-3F	56.02	91.1	1	住居地域	1	1
30	行橋の住宅	201703	核家族	N	W	1F-2F	46.49	150.38	3	住居地域	2	2
31	権坂の家	201704	核家族	N	W	1F-2F	39.05	102.69	3	住居地域	3	2
32	安城の住宅	201705	核家族	N	W	1F-2F	49.09	126.78	1	住居地域	1	1
33	小江戸川越の住宅	201705	夫婦	N	W	1F-2F	55.7	66.87	1	住居地域	1	0
34	Gable Roof House	201706	核家族	N	W	1F-2F	45.59	157.77	1	住居地域	1	1
35	戸屋の家	201706	核家族	N	W	1F-2F	66.11	159.77	1	住居地域	2	2
36	熊本・龍田の家	201708	核家族	N	W	1F-2F	45	95.84	2	その他	2	2
37	石神井町の家	201711	核家族	N	W	1F-2F	50.58	85.15	1	住居地域	2	1
38	刈谷の家	201712	核家族	R	W	1F-2F	21.3	1298.59	6	住居地域	2	1
39	中田の自邸	201801	核家族	N	RC	1F-2F	41.62	100.64	1	住居地域	2	1
40	マチノスキマ	201801	2世帯	N	W	1F-2F	41.63	105.996	1	その他	1	4
41	House IN 裏とオモテと境界	201802	2世帯	R	W	1F-2F	35.07	174.43	1	その他	2	4
42	おおきなかさの下で	201803	核家族	N	W+RC	1F	35.14	148.59	2	住居地域	1	5
43	相模原の住宅	201805	核家族	N	W	1F-2F	44.14	80.26	1	その他	1	1
44	house h	201805	夫婦	N	S+RC	B2-F3	51.93	213.06	7	その他	3	1
45	八雲	201806	核家族	N	W+RC	B1-2F	49.96	155.17	1	住居地域	1	2
46	K2 House	201809	核家族	N	W	1F-2F	54.43	100.79	1	住居地域	1	1
47	日光の家	201903	核家族	N	W	1F-2F	32.32	152.22	1	商業地域	1	4
48	ボーダーレスの家	201904	核家族	N	W	1F-3F	65.5	62.91	1	住居地域	2	0
49	CARVE HOUSE	201905	核家族	N	W	1F-2F	43	93.96	1	その他	1	1
50	LOVE ² HOUSE	201905	夫婦	N	RC	1F	59.97	18.84	1	その他	1	0
51	加藤邸	201910	核家族	N	W	1F-2F	23.32	114.61	1	その他	2	2
52	オセロハウス	202002	核家族	N	W	1F-2F	51.85	144.93	1	住居地域	2	2
53	日進でのたち方	202003	2世帯	N	W	1F	38.85	172.55	1	住居地域	1	3
54	細工谷のY邸	202004	核家族	N	W	1F-2F	65.85	70.47	1	住居地域	3	1
55	菊坂の家	202005	核家族	N	RC	B1-3F	74.97	108.3	1	商業地域	2	0
56	一ツ木の住宅	202005	核家族	N	W	1F-2F	52.53	119.26	1	その他	1	1
57	城南の家	202006	核家族	R	W	1F-2F	51.21	89.05	4	住居地域	2	0
58	FKS	202007	核家族	N	W	1F-2F	49.88	109.1	1	住居地域	1	0
59	蒲郡の住宅	202008	核家族	N	W	1F-2F	46.97	118.7	3	その他	1	2
60	Park in House	202103	核家族	N	W+RC	B1-2F	62.06	66.82	1	住居地域	2	0

参考文献

1) 竹田和行, 菅沼響子, アルマザン ホルヘ: コモンスペースの設計論に関する研究(その1): コモンスペースにおける地域への繋がりを目的とした設計思考, 日本建築学会計画系論文集 第85巻 第778号, pp.2807-2817,2020

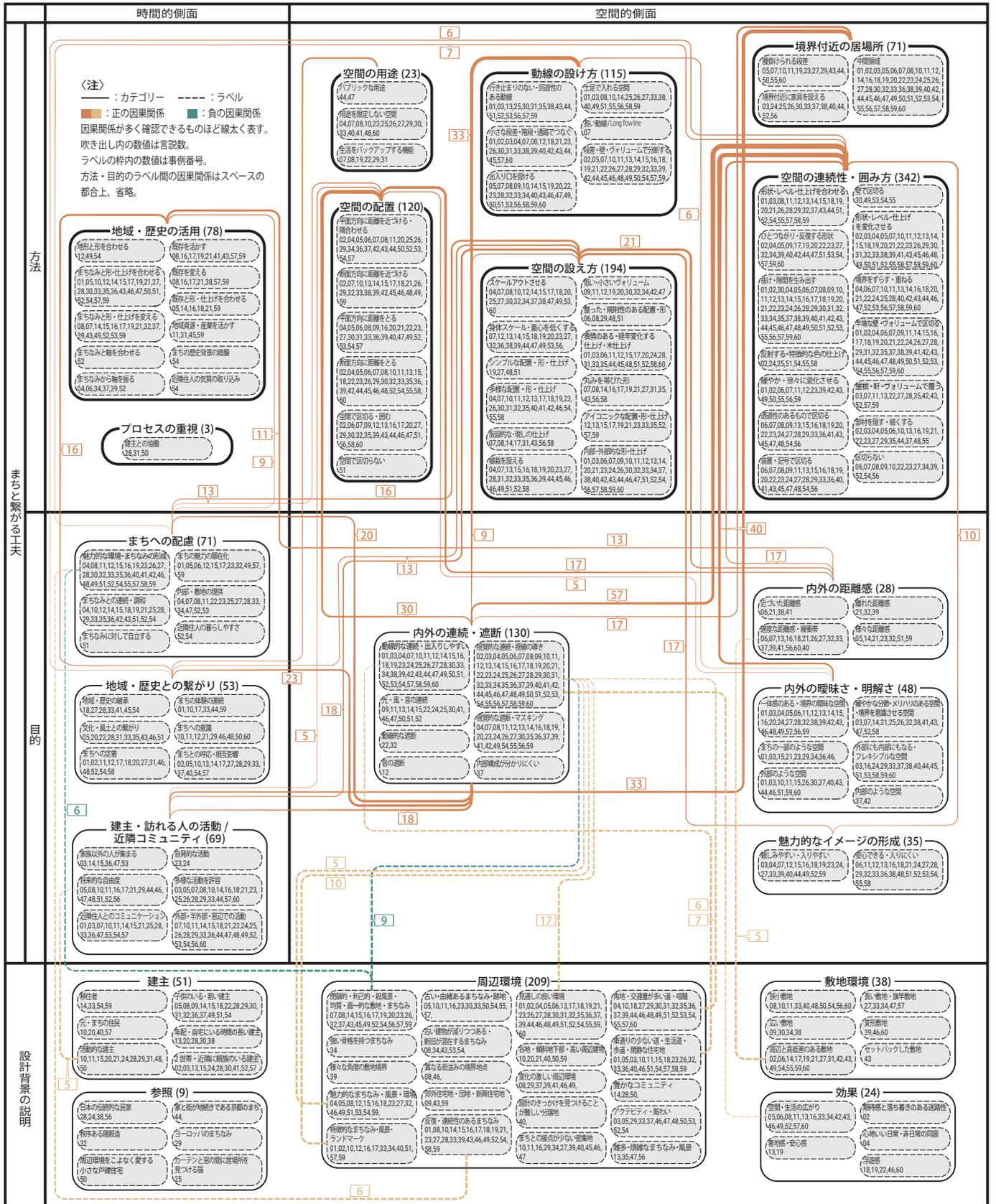


図1 言説の分類と因果関係

*1 富山大学芸術文化学部学部長

*2 富山大学大学院芸術文化学術研究科大学院生

*3 富山大学学術研究部芸術文化学系講師・博士 (デザイン学)

*4 グリーンノートレーベル株式会社

*5 株式会社トミソー

*1 Undergraduate, Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama

*2 Graduate School of Arts and Culture, Toyama University

*3 Lecturer, Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama, Doctor of Design

*4 Green Note Label Inc.

*5 Tomiso Corporation